

中部圏の景況感の現状（1～3月期）と見通し（7～9月期まで）

〔今回のポイント〕

中部圏の景況判断



1～3月期の中部圏の景況判断(「良い」－「悪い」社数構成比)は、3期連続で悪化し、20. 3(前期比▲6. 7ポイント)となった。前回予測も下回った。

項目別では、業績判断が2期連続で悪化した一方で、設備投資計画判断、機械設備水準判断は2期ぶりに改善した。

業種別では、製造業の業績判断D. I. が3期ぶりに改善した一方で、建設業が悪化に転じた。

景況判断の先行きについては、中国・新興国経済への根強い懸念や為替や株価の懸念の高まりなどから、4～6月期は悪化するものの、7～9月期は改善するものと見られている。

為替相場については、円高基調を反映して「企業が想定するレート」が円高方向に振れ、「適切な水準」と同一となった。

原油価格(通関CIF)については、足元の相場を反映して、「企業が想定する価格」の平均が\$ 45. 7と、前回調査よりも大きく下落した。

わが国の景気の現状については「緩やかな拡大」が大幅に減少し、「概ね横ばい」、「緩やかに後退」が増加した。

〔調査の概要〕

◎調査時期：平成28年2月8日～2月23日

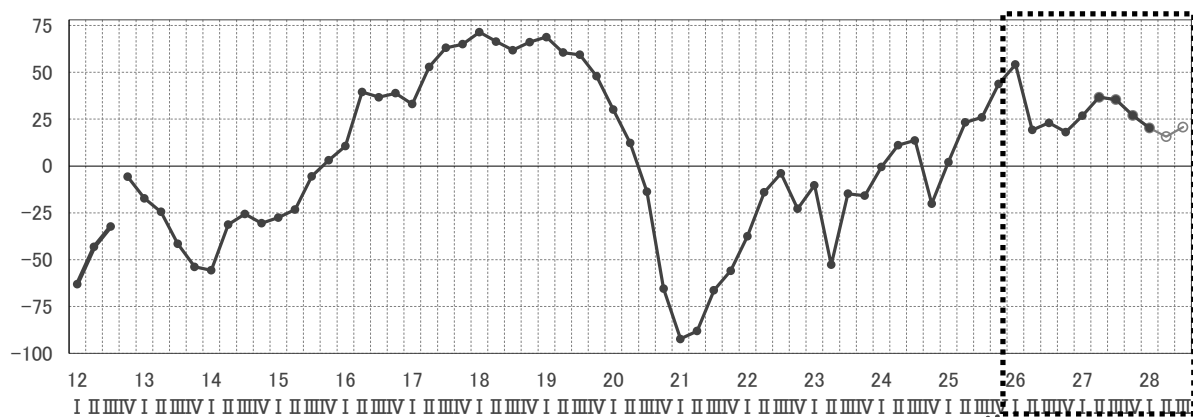
◎対象：法人会員代表者等

◎回答：238社（回答率:35. 4%、対象672社）

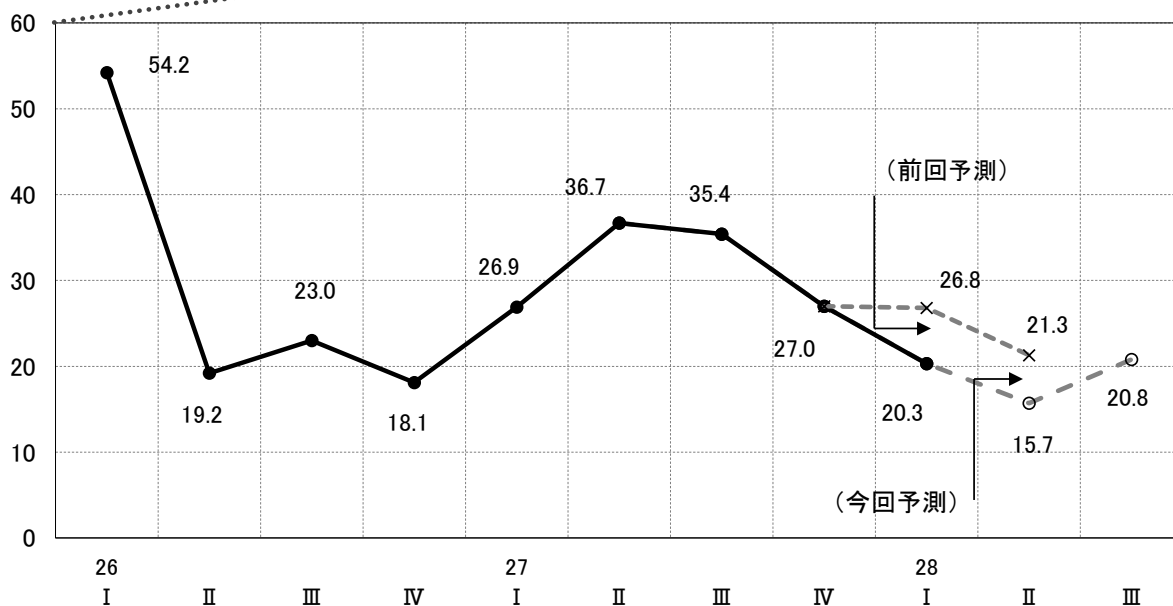
中部圏の景況感

(1) 中部圏の景況判断

[現況判断・見通し：「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



[現状] 中部圏の景況判断は、3期連続して悪化した。

[今後] 来期は悪化するものの、再来期は改善するものと見られている。

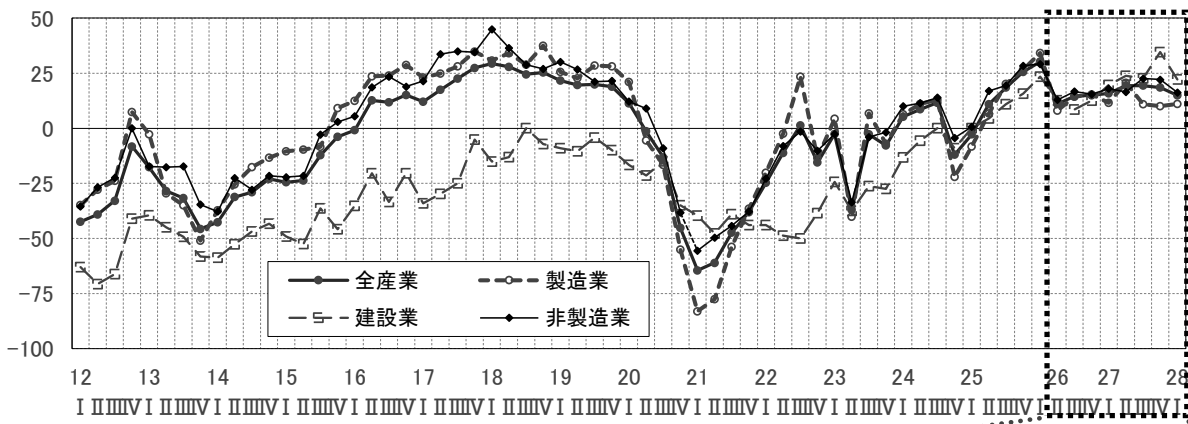
【景況判断(D. I.)の内訳】

[12月]	1 : 悪い	2 : さほど良くない	3 : 良い	D.I.(良い-悪い)
	2.4%	68.2%	29.4%	27.0
[今回]	1 : 悪い	2 : さほど良くない	3 : 良い	D.I.(良い-悪い)
	4.0%	71.7%	24.3%	20.3

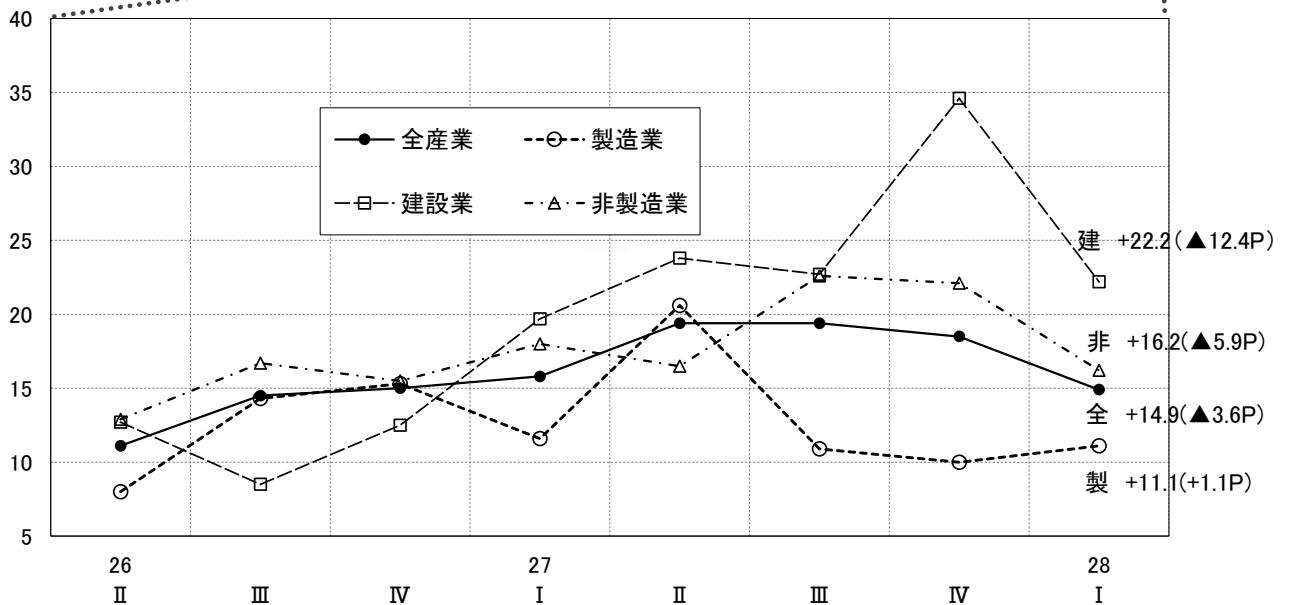
- 6.7P

(2) 業績判断

[現況判断:「良い」-「悪い」]



【最近の動き】



業績判断は、全産業で2期連続で悪化した。
業種別では、製造業が3期ぶりにわずかに改善した一方で、建設業は大幅な悪化に転じ、非製造業は3期連続で悪化した。

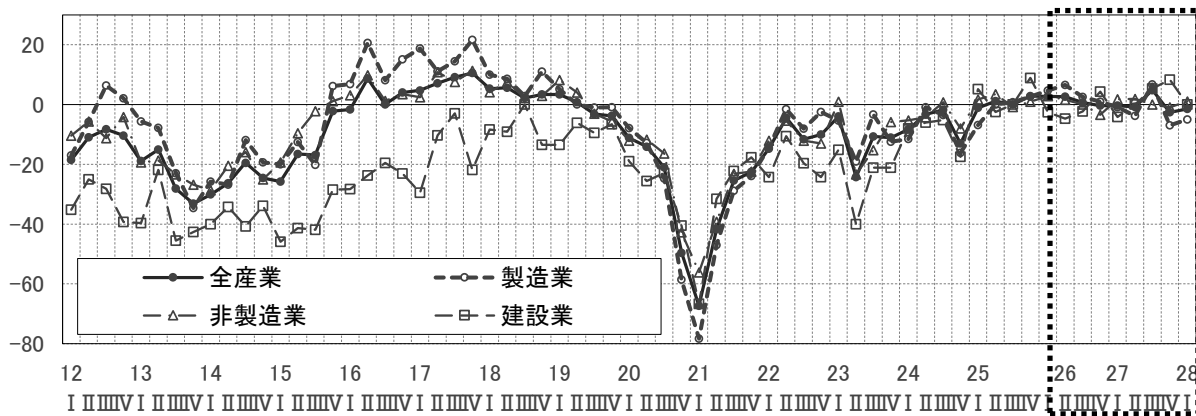
【業績判断(D. I.)の内訳】

[12月]	1 :悪い 6.5%	2 :さほど良くない 68.5%	3 :良い 25.0%	D.I.(良い-悪い) 18.5
[今回]	1 :悪い 10.6%	2 :さほど良くない 63.9%	3 :良い 25.5%	D.I.(良い-悪い) 14.9

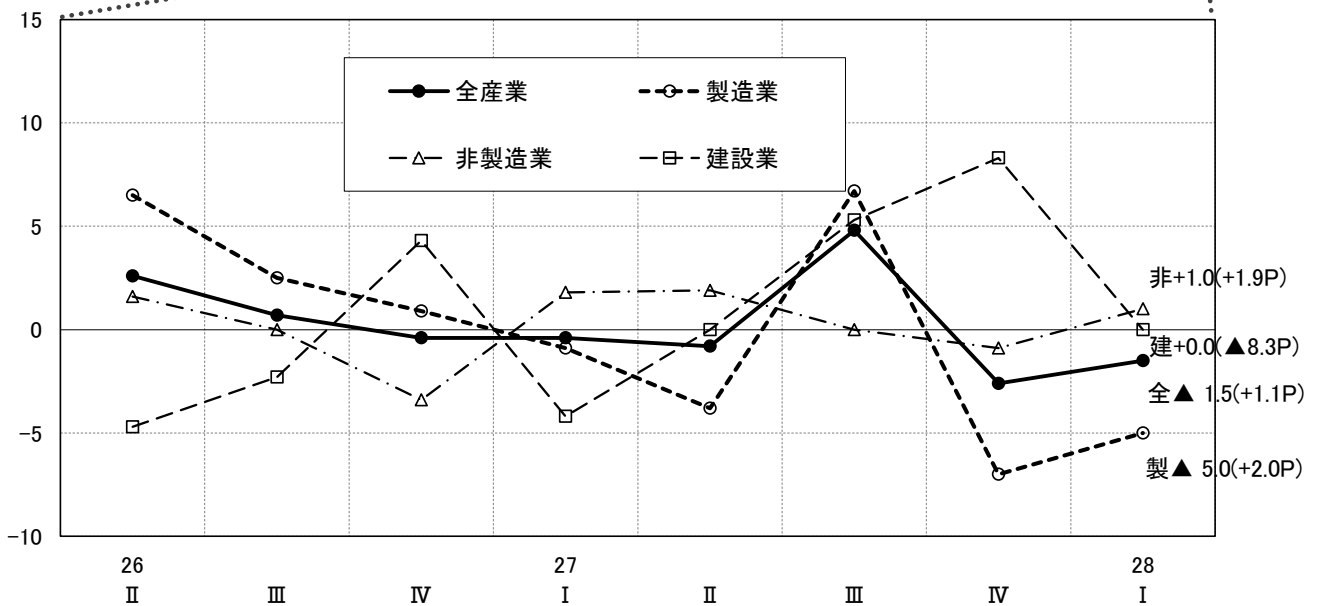
- 3.6P

(3) 設備投資計画判断

[現況判断:「積増し」-「縮小・繰り延べ」]



【最近の動き】



設備投資計画判断は、全産業で2期ぶりにわずかに改善した。
業種別では、建設業が大幅に悪化した一方で、製造業、非製造業は改善に転じた。
「変わらず」が依然として9割近くを占めており、「縮小・繰延べ」、「積増し」ともに割合は小さい。

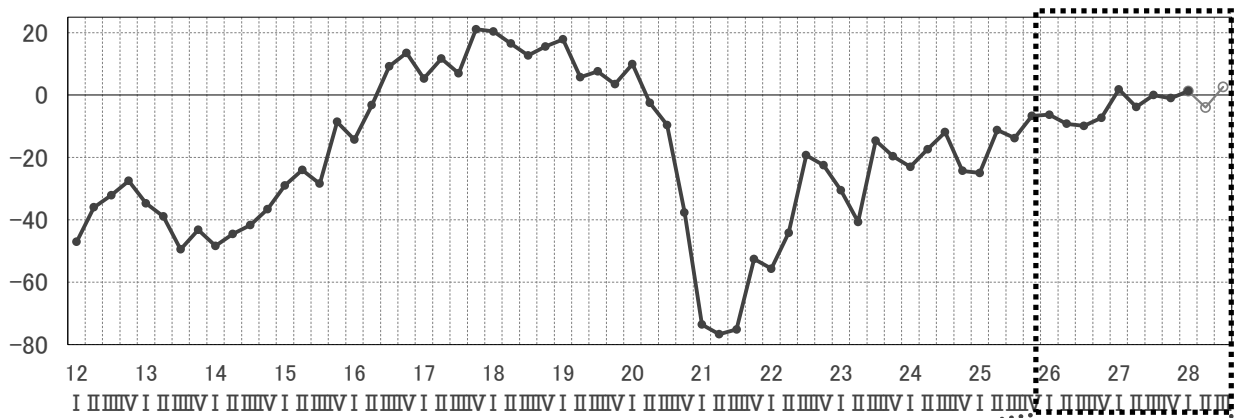
【設備投資計画判断(D. I.)の内訳】

[12月]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)
	6.4%	89.8%	3.8%	▲ 2.6
[今回]	1:縮小・繰延べ	2:変わらず	3:積増し	D.I.(積増し-縮小・繰延べ)
	7.0%	87.6%	5.5%	▲ 1.5

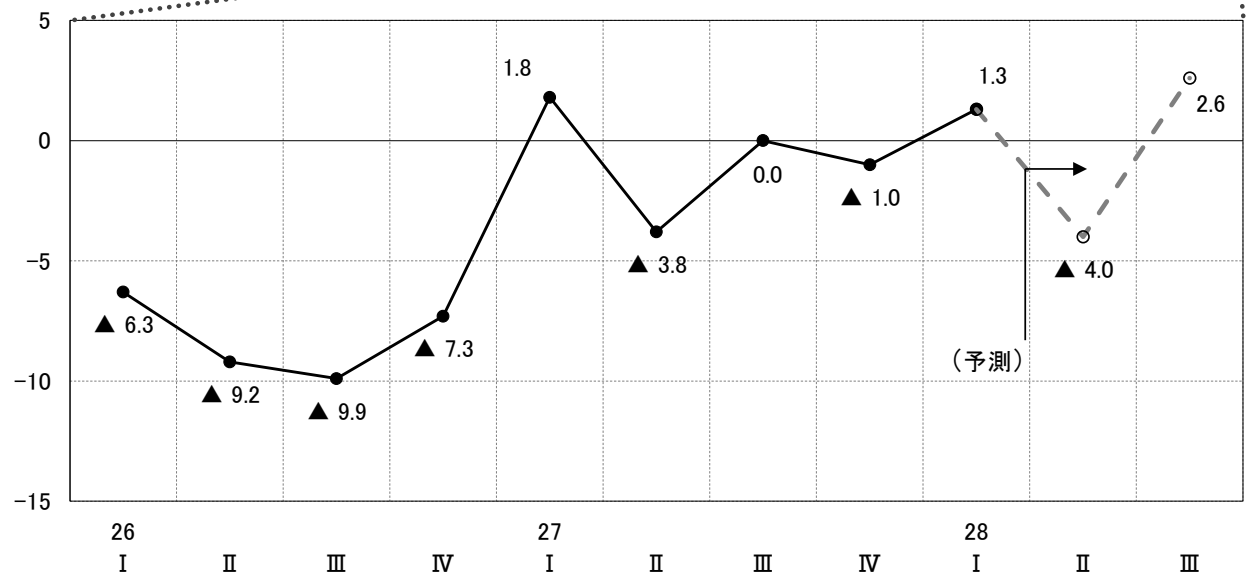
+ 1.1P

(4) 機械設備水準判断 (製造業)

[現況判断・見通し: 「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



[現状] 機械設備水準判断は、2期ぶりの改善となった。

[今後] 来期は悪化するものの、再来期は改善するものと見られている。

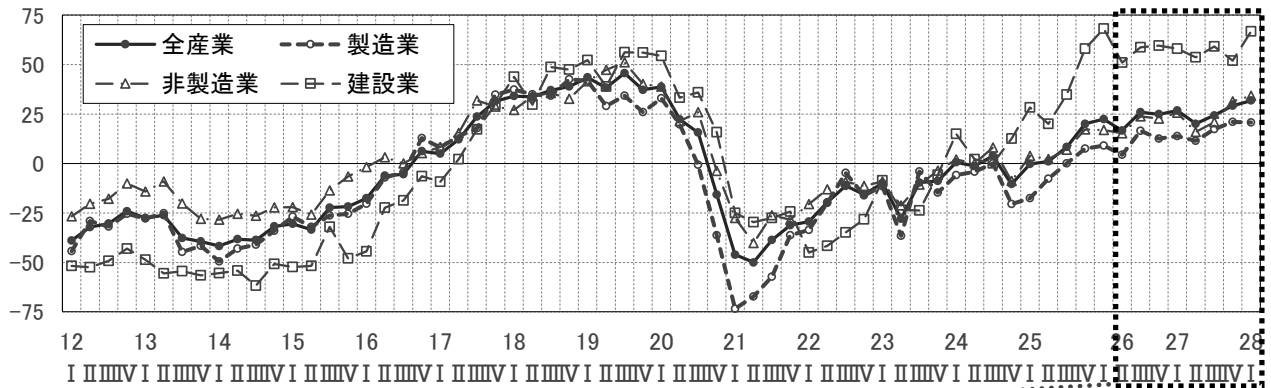
【機械設備水準判断(D. I.)の内訳】

[12月]	1 : 過剰 12.2%	2 : 適正 77.1%	3 : 不足 11.2%	D.I.(不足-過剰) ▲ 1.0
[今回]	1 : 過剰 11.5%	2 : 適正 75.6%	3 : 不足 12.8%	D.I.(不足-過剰) 1.3

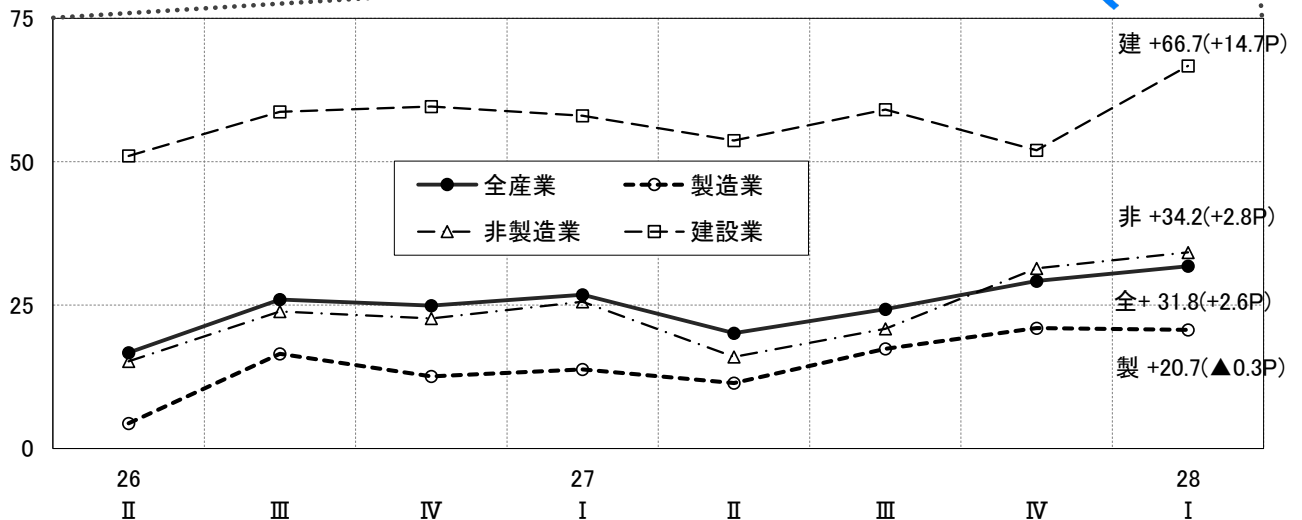
+ 2.3P

(5) 雇用判断

[現況判断:「不足」-「過剰」]



【最近の動き】



人手不足感は、全産業で3期連続で上昇した。業種別では、製造業のみ微減であったが、非製造業で3期連続の上昇、建設業で上昇に転じた。

【雇用判断(D. I.)の内訳】

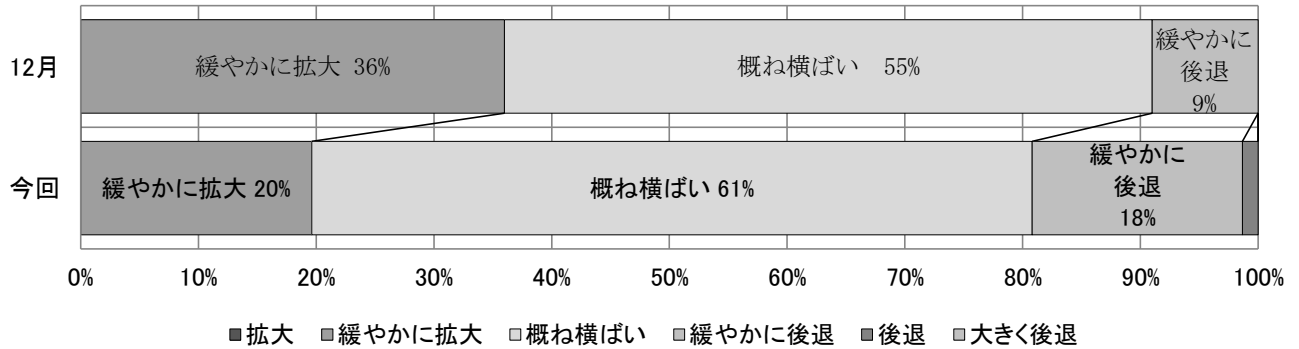
全産業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 2.6P
		3.7%	63.4%	32.9%	29.2	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	←
		2.8%	62.6%	34.6%	31.8	
製造業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	- 0.3P
		6.0%	67.0%	27.0%	21.0	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	←
		4.9%	69.5%	25.6%	20.7	
非製造業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 2.8P
		2.5%	63.6%	33.9%	31.4	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	←
		1.8%	62.3%	36.0%	34.2	
建設業	[12月]	1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	+ 14.7P
		0.0%	48.0%	52.0%	52.0	
[今回]		1:過剰	2:適正	3:不足	D.I.(不足-過剰)	←
		0.0%	33.3%	66.7%	66.7	

フォーカス①

日本経済の現状認識と経済政策について

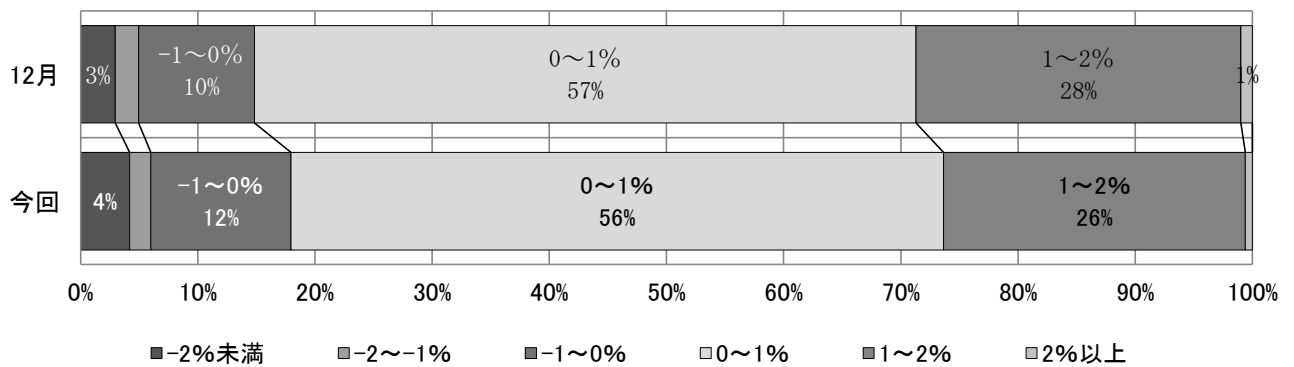
1. 日本経済の現状認識について

(1) 景気の現状について



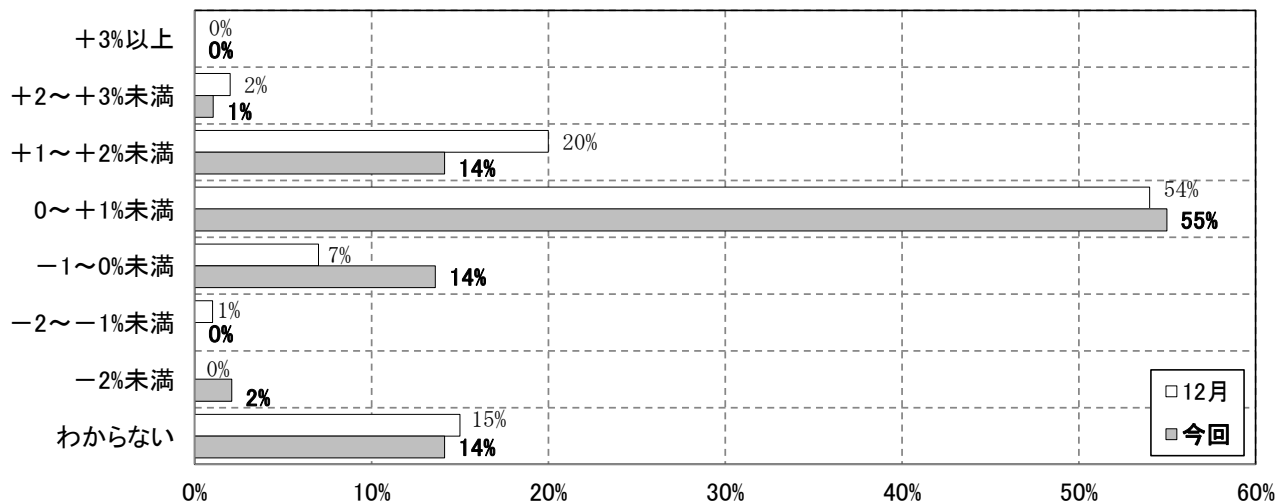
「緩やかに拡大」が大幅に減少する一方、「概ね横ばい」、「緩やかに後退」が増加した。

(2) 平成27年度の経済成長率（GDP）見通しについて



「1~2%以上」の割合が前回に引き続き減少し、1%未満の割合が増加した。

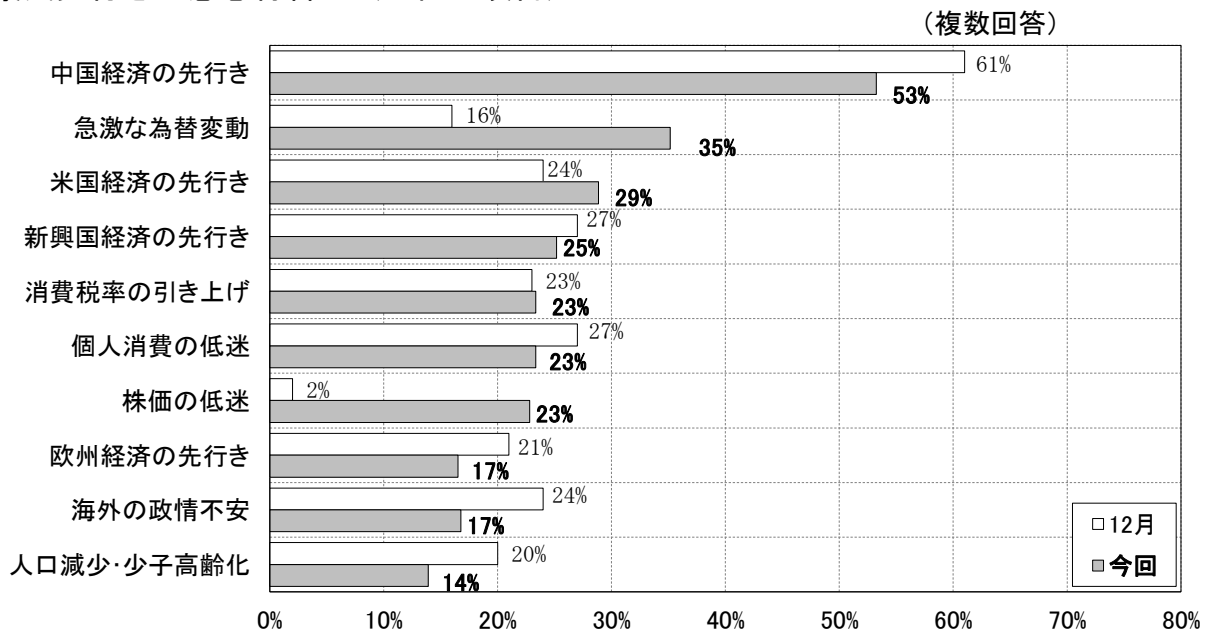
(3) 平成27年度末の物価見通しについて



+1%以上の物価上昇率を予想する回答が減少した一方で、「0~+1%未満」、「-1~0%未満」の物価上昇率を予想する割合が増加した。

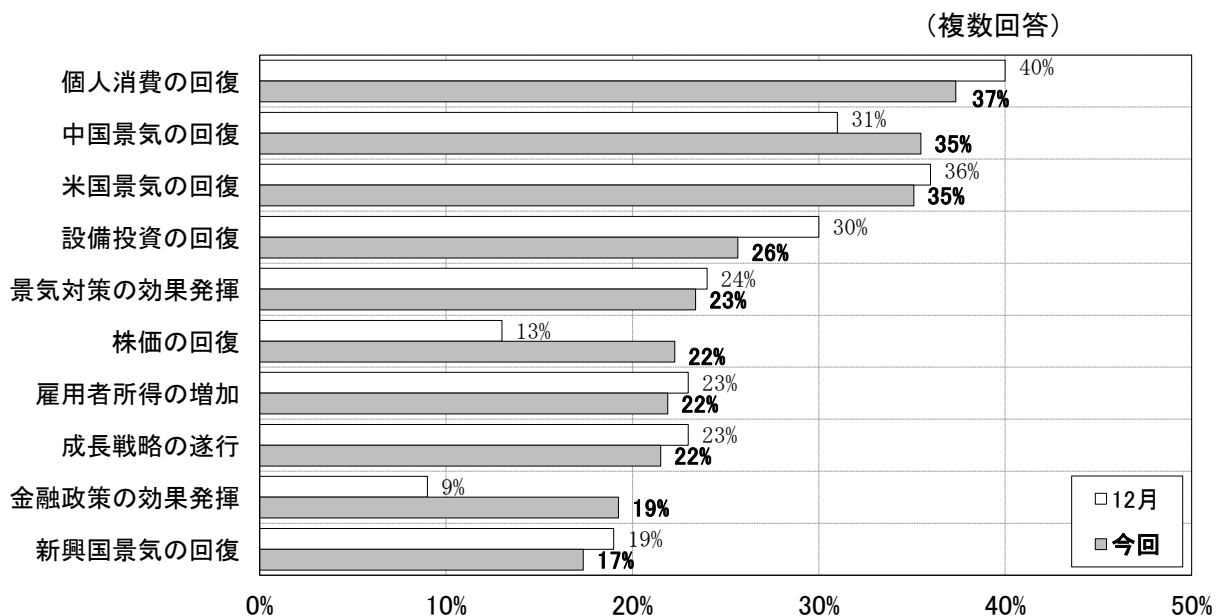
2. 景気先行きの懸念材料・期待材料と経済政策への期待について

(1) 景気先行きの懸念材料 (上位10項目)



「中国経済の先行き」、「急激な為替変動」、「米国経済の先行き」、「新興国経済の先行き」への懸念が上位を占めた。「株価の低迷」、「急激な為替変動」、「米国経済の先行き」を懸念する企業が増加した。

(2) 景気先行きの期待材料 (上位10項目)

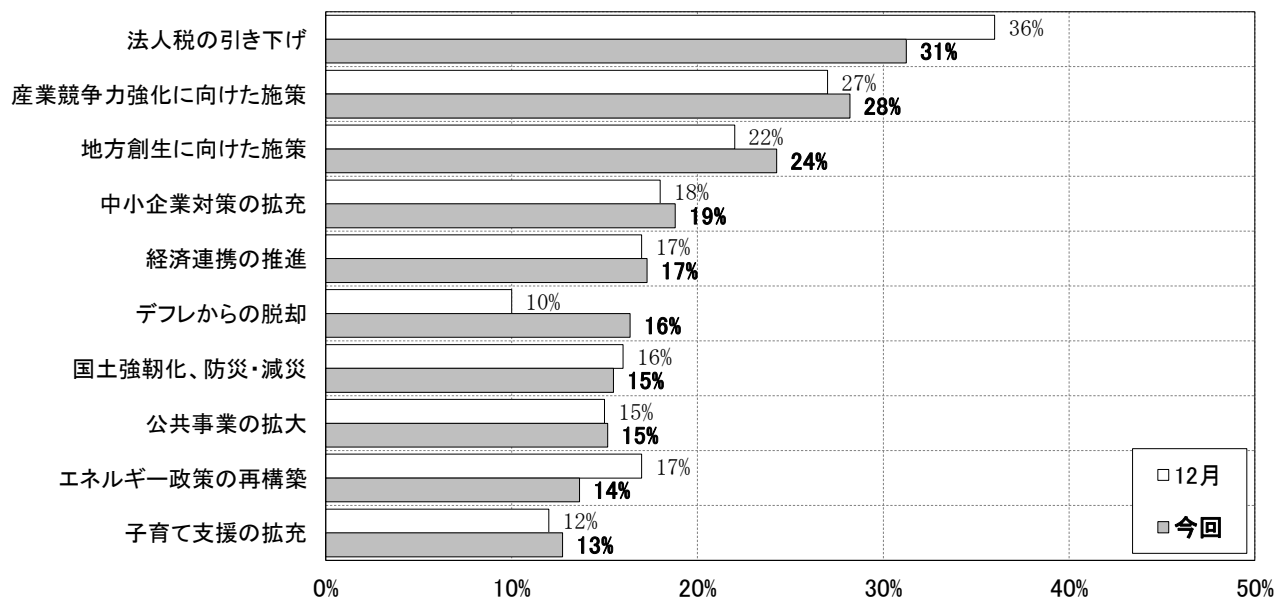


「個人消費の回復」への期待が最も多く、次いで「中国景気の回復」、「米国景気の回復」、「設備投資の回復」に対する期待が上位を占めた。

また、「金融政策の効果発揮」、「株価の回復」、「中国景気の回復」に期待する企業が増加した。

(3) 今後の経済政策運営等へ期待するものについて (上位10項目)

(複数回答)

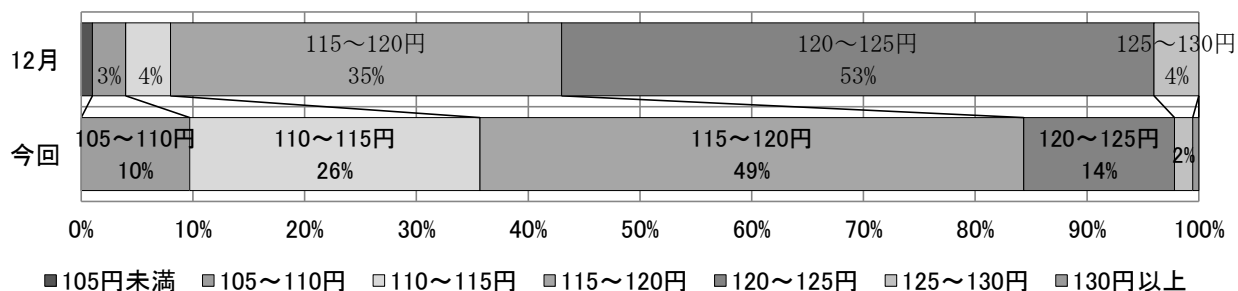


「法人税の引き下げ」、「産業競争力強化に向けた施策」、「地方創生に向けた施策」への期待が上位を占めた。

また、「デフレからの脱却」、「地方創生に向けた施策」などに期待する企業が増加した。

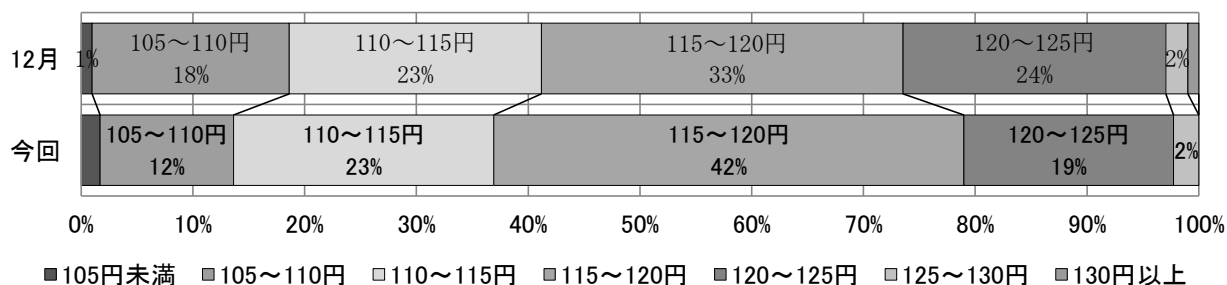
フォーカス② 為替レートについて

(1) 平成27年度下期の業績予想の前提 対ドル・円レート〔銀行間直物〕



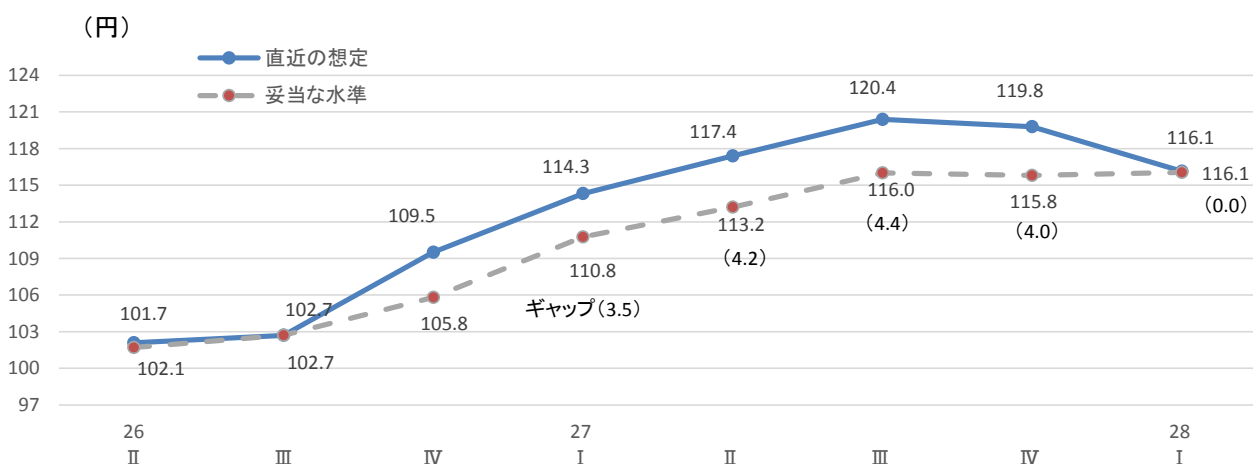
「120～125円」が大幅に減少した一方で、「115～120円」、「110～115円」が大幅に増加し、「120円未満」との回答が8割を上回った。

(2) 為替レートの妥当な水準 対ドル・円レート



「115～120円」が大幅に増加し、前回と比べて120円以上を妥当とする回答は減少した。

(3) 業績予想の前提レートと妥当な水準の推移



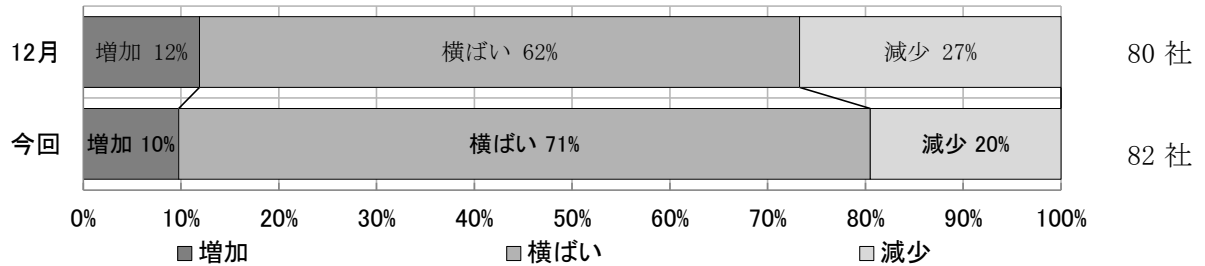
「業績予想の前提レート」が円高方向に振れ、「妥当な水準」とのギャップは無くなった。

(注) 数値は単純平均値

フォーカス③ 輸出の増減について

(1) 貴社の輸出の増減について（輸出を行う企業のみを対象）

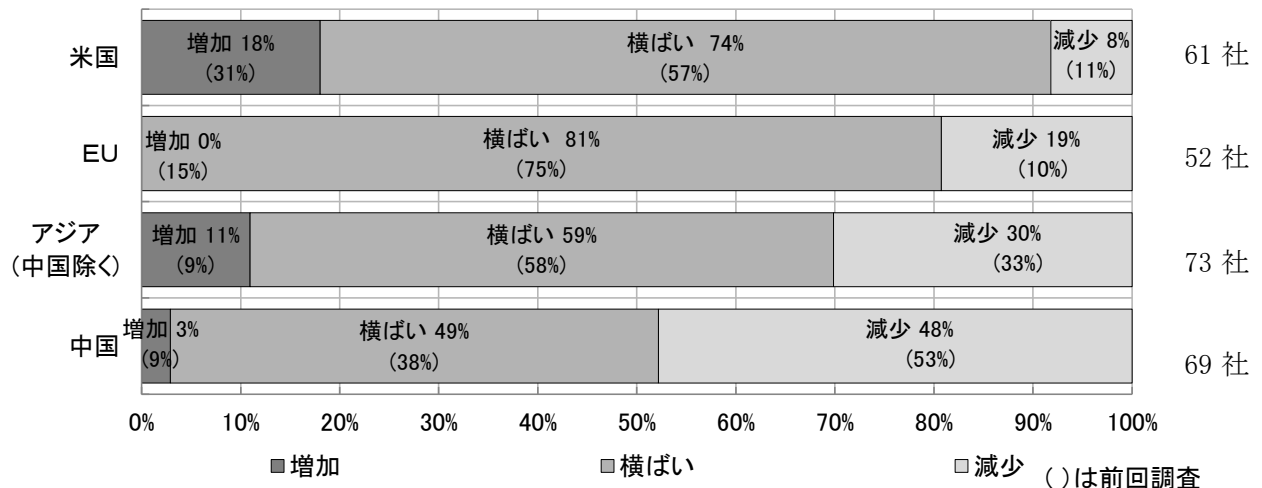
(回答社数)



「増加」が減少した一方で、「横ばい」が増加し、全体の7割を占めた。

(2) 地域別輸出の増減

(回答社数)

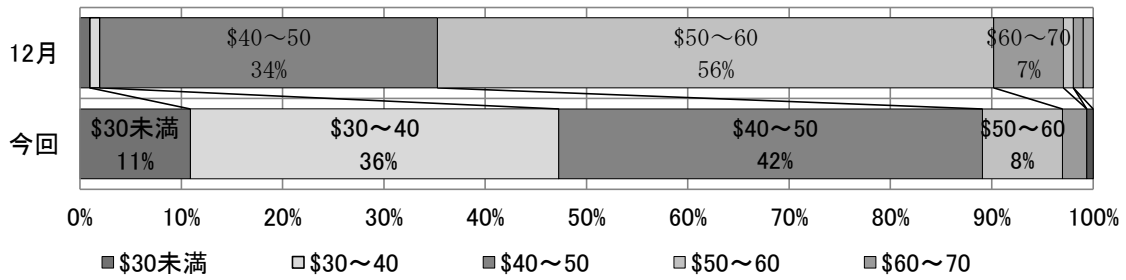


全地域で「横ばい」が最も多く、特に米国向けで大幅に増加した。

EU、アジア、中国向けは「横ばい」の回答が増加しており、EU向けは「減少」の回答が増加し、「増加」がゼロとなった。

フォーカス④ 原油価格について

(1) 平成27年度下期の業績予想の前提 原油価格〔通関（C I F）〕



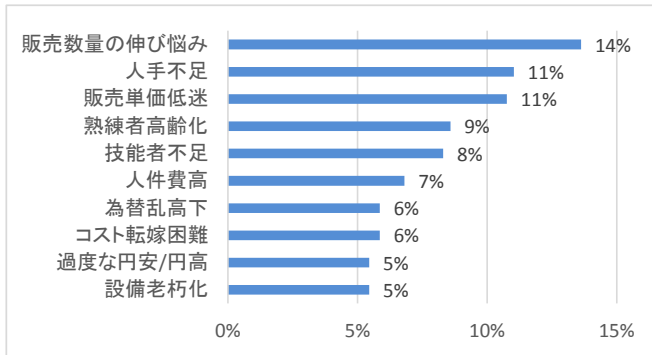
「\$60～70」、「\$50～60」は大幅に減少し、「\$30～40」、「\$40～50」が増加した。前回と比較し、予想価格は一段と下落している。

(参考)単純平均値 今回: \$45.7 前回: \$57.0

フォーカス⑤ 経営上の課題について

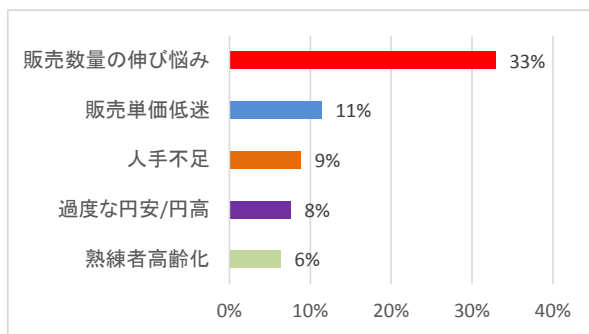
(1) 経営上の課題に該当するもの（全産業 上位10項目）

（複数回答）

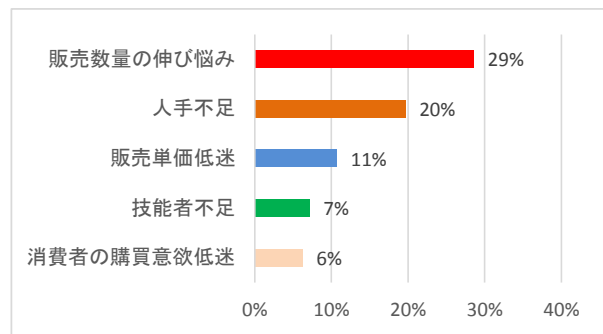


(2) そのうち最も大きな課題（上位5項目）

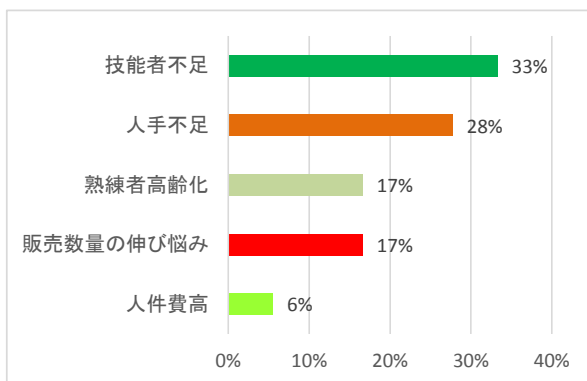
・製造業



・非製造業



・建設業



経営上の課題は、「販売数量の伸び悩み」、「人手不足」、「販売単価低迷」の順に多い。そのうち最も大きな課題については、製造業、非製造業で「販売数量の伸び悩み」、建設業では「人手不足」に代わり「技能者不足」が最多となっている。また、製造業では「過度な円安/円高」が前回の「コスト転嫁困難」に代わって上位5項目に入った。

<参考> 時系列データ

		平成27年				平成28年
		I	II	III	IV	I
		(1-3月)	(4-6月)	(7-9月)	(10-12月)	(1-3月)
中部圏の景況感						
景況判断(D. I.)		26.9	36.7	35.4	27.0	20.3
業績判断(D. I.)	全産業	15.8	19.4	19.4	18.5	14.9
	製造業	11.6	20.6	10.9	10.0	11.1
	非製造業	18.0	16.5	22.6	22.1	16.2
	建設業	19.7	23.8	22.7	34.6	22.2
設備投資計画判断(D. I.)	全産業	-0.4	-0.8	4.8	-2.6	-1.5
	製造業	-0.9	-3.8	6.7	-7.0	-5.0
	非製造業	1.8	1.9	0.0	-0.9	1.0
	建設業	-4.2	0.0	5.3	8.3	0.0
機械設備水準判断(D. I.)		1.8	-3.8	0.0	-1.0	1.3
雇用判断(D. I.)	全産業	26.8	20.1	24.3	29.2	31.8
	製造業	13.8	11.4	17.4	21.0	20.7
	非製造業	25.6	16.0	20.9	31.4	34.2
	建設業	58.0	53.7	59.1	52.0	66.7
景気の現状とGDP見通し(フォーカ①)						
景気の現状	拡大	0%	1%	0%	0%	0%
	緩やかに拡大	55%	64%	64%	36%	20%
	概ね横ばい	41%	34%	32%	55%	61%
	緩やかに後退	4%	1%	5%	9%	18%
	後退	0%	0%	0%	0%	1%
	大きく後退	0%	0%	0%	0%	0%
GDP見通し	-2%未満	3%	3%	1%	3%	4%
	-2%~-1%未満	3%	0%	2%	2%	2%
	-1%~0%未満	15%	4%	4%	10%	12%
	0%~1%未満	45%	41%	45%	57%	56%
	1%~2%未満	29%	47%	46%	28%	26%
	2%以上	4%	5%	3%	1%	1%
為替レート(フォーカ②)						
業績予想の前提(対ドル・円レート)						
	85円未満	-	-	-	-	-
	85~90円未満	-	-	-	-	-
	90~95円未満(平成26年IV期は95円未満)	-	-	-	-	-
	95~100円未満	-	-	-	-	-
	100~105円未満(平成27年I、II期は105円未満)	2%	0%	1%	1%	0%
	105~110円未満	20%	6%	2%	3%	10%
	110~115円未満(平成26年I期からIII期までは110円以上)	23%	14%	5%	4%	26%
	115~120円未満	51%	56%	29%	35%	49%
	120~125円未満(平成26年IV期は120円以上)	3%	22%	54%	53%	14%
	125~130円未満	0%	1%	9%	4%	2%
	130円以上	0%	0%	0%	0%	1%
想定レートと妥当な水準(単純平均値 円/\$)						
	想定レート	114.3	117.4	120.4	119.8	116.1
	妥当な水準	110.8	113.2	116.0	115.8	116.1
輸出の増減(フォーカ③)						
輸出の増減	増加	22%	19%	16%	12%	10%
	横ばい	68%	68%	68%	62%	71%
	減少	10%	13%	16%	27%	20%
米国	増加	40%	27%	33%	31%	18%
	横ばい	53%	63%	64%	57%	74%
	減少	7%	11%	3%	11%	8%
EU	増加	14%	16%	15%	15%	0%
	横ばい	73%	74%	77%	75%	81%
	減少	12%	10%	7%	10%	19%
アジア(除く中国)	増加	18%	17%	13%	9%	11%
	横ばい	63%	63%	63%	58%	59%
	減少	19%	20%	25%	33%	30%
中国	増加	11%	13%	12%	9%	3%
	横ばい	66%	61%	50%	38%	49%
	減少	23%	27%	38%	53%	48%